

【エッセイ部門・奨励賞】

ピアノを愛する、地球を愛する

白百合学園高等学校 第1学年 歌原穂乃子

「最近、ピアノの値段が高騰しているんですよ。」

先日、自宅にいらしたピアノの調律師の方のその言葉に私は衝撃を受けた。テクノロジーの発展が目まぐるしい現代、ピアノは電子ピアノが主流となりつつある。グランドピアノやアップライトピアノといった、いわゆる「本物のピアノ」の需要は低下しているのだ。「このピアノも、今買うとなると倍以上の値段になりますよ。」

私が愛用するピアノはアップライトピアノで、「本物のピアノ」である。しかし、これは母が幼い頃に弾いていたピアノを譲り受けたものだ。だから購入したのは約四十年前になる。何故ピアノの価格が高騰してしまっているのか、私は調律師の方に伺った。

「コロナ禍でピアノを本格的に始められる方が増えているんです。」

新型コロナウイルスが蔓延し、「おうち時間」が増えている。その中で音楽の魅力に気づいてくれる人が増えるのは、音楽を愛する人間として願っても無いことだ。しかし、ピアノの価格が高騰している原因はそれだけではなかった。

「実は環境破壊も原因になっています。良い原料が育たなくなっていて、ピアノの生産コストが上がっているんです。」

入手が困難になっているピアノの原料の一つが、「スプルース」という樹の木材だ。このスプルースは、アメリカのアラスカ州やヨーロッパの一部地域が原産の、マツ科の常緑針葉樹である。この樹は、成長スピードが遅く、その分内部が綿密に詰まっているのが特徴だ。ピアノにおいて、木材は音を反響させる「響板」の役割を担う。そのため、木材の密度の高さはピアノの音質に大きく影響するのだ。しかし、環境破壊によって地球の気温が上昇したことで、スプルースの成長が早くなったため、内部の密度が下がってしまったのだ。また、もう一つ価格が高騰している原料があるそうだ。

「羊さんの毛も値段が上がっているんです。ほらここに使われてる。」

そういつて見せられたのが、ピアノの内部で弦を叩いているハンマーの部分だ。ここにフェルトがついていて、羊毛が使用されている。羊毛の価格が高騰している原因が酸性雨だ。酸性雨によって土壌が酸性化されると、牧草に含まれる成分も変化する。その牧草を食べた羊の毛の品質も、また低下してしまうのだ。また、ピアノは繊維産業などと比較すると、羊毛の使用量が少ない。そのため大量に仕入れることが出来ないの、仕入れ価格が高騰してしまうのだ。

環境破壊が、私の大好きな楽器の製造にまで悪影響を及ぼしているとは思ってもみなかった。また最近では、急激な円安やロシアのウクライナ侵攻などにより、更に原料の輸入が困難になっているようだ。

もし今後もピアノの生産コストが上がっていくとしたら、世界に出回る「本物のピアノ」の数は減ってしまうだろう。もちろん、電子ピアノの品質はより良いものとなり、価格も低下する。では、本当に電子ピアノは「本物のピアノ」の代用品になれるのか。私はそこに疑問を覚える。音楽は、喜べる時も怒れる時も悲しめる時も、どんな感情にも優しく寄り添い、包み込んでくれる、そんな存在であると思う。私は気分が落ち込んでどうしようもない時、ピアノに話しかける。指から伝わる木の温もり、心に心地よく響く音は、いつでも愛を持って癒してくれる。また、音楽は私にとって言葉、一つのコミュニケーションツールだ。言葉では言い表せない混沌とした思いも、ピアノはその優しい歌で代弁してくれる。生活を、時間を、感情を共にするパートナーになれるのは、「本物のピアノ」だけだと私は考える。

ピアノが無くても人間は生きていける。そう言ってしまえば終わりだ。しかし、古くから人間に愛されて、繋がれてきた音楽の歴史を、ここで途切れさせても良いのか。人間は創造する力を持つ。それと同時に破壊する力をも持つ。環境破壊によって、人間が創造し、積み上げてきた遺産を、人間が破壊するのはあまりに勿体ない。

「このピアノは大切に使ってあげてくださいね。」

自分が愛するものと同じように、この地球を愛することが出来たら、この地球の未来はもっと輝くかもしれない。